

行政措置予防接種一覧表

R8.4.1現在

№	対象疾病 (ワクチン)		対 象 者	実 施 方 法				備 考	
				回 数	間 隔	接種量			方法
1	季節性インフルエンザ		生後6か月以上でB類の対象者を除く 全年齢	2回 (13歳未満) 1回または2回 (13歳以上)	(13歳未満) 2～4週間 (13歳以上) 1～4週 (免疫効果を考慮すると4 週間が望ましい)	6か月以上 3歳未満	各0.25ml	皮下	KMバイオロジクス、阪大微 研、デンカのワクチン
			2歳以上19歳未満の者	1回		3歳以上	各0.5ml		
	2	経皮接種用乾燥BCG		予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	1回		規定のスポンジで滴下		経皮
3	沈降精製百日せきジフテリア破 傷風不活化ポリオヘモフィルス b型混合		予防接種法で定める対象年齢外で あって、15歳未満で医師が必要と認め る者	4回		各0.5ml 但し、沈降ジフテリア破傷風混合 トキソイドを使用した 第2期の接 種を行う場合は0.1mlとする。		皮下また は筋肉内	
4	沈降精製百日せきジフテリア破 傷風混合		予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	4回					
5	沈降ジフテリア破傷風混合トキ ソイド		予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	3回					
6	不活化ポリオ		予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	4回					
7	乾燥細胞培養日本脳 炎	1期	予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	3回		3歳未満	各0.25ml	皮下	
		2期	予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	1回		3歳以上	各0.5ml		
8	乾燥弱毒生麻しん風しん混合 (MR)		予防接種法で定める対象年齢外で医 師が必要と認める者	1回		0.5ml		皮下	
	乾燥弱毒生麻しん(M)								
	乾燥弱毒生風しん(R)								
9	小児用肺炎球菌	13価	2か月 齢以上、6歳未満の者	初回免疫3回	27日以上	各0.5ml		皮下	
				追加免疫1回	3回目接種後60日間以 上間隔をあけて 12か月 齢以上で接種				
		15価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、18歳未満で医師が必要と認め る者	初回免疫3回	27日以上	各0.5ml		皮下また は筋肉内	
				追加免疫1回	3回目接種後 60日間以上				
		20価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、6歳未満で医師が必要と認め る者	初回免疫3回	27日以上	各0.5ml		皮下また は筋肉内	
				追加免疫1回	3回目接種後60日間以 上間隔をあけて 12か月 齢以上で接種				
10	肺炎球菌(20価)		B類の対象者を除く、6歳以上の者	1回		0.5ml		筋肉内	
11	ヒトパピローマウイルス 感染症 (HPVワクチン)	2価	満10歳以上の女子で医師が必要と認め る者	3回	初回目を0月として以降 1か月、6か月後	各0.5ml		筋肉内	9歳以上15歳未満の女性 は、初回接種から 6～12か月の 間隔を置いた 合計2回の 接種とすること ができる。
		4価	満9歳以上で医師が必要と認める者	3回	初回目を0月として以降 2か月、6か月後				
		9価	予防接種法で定める対象年齢外で あって、満9歳以上で医師が必要と認め る者	3回 (2回)	初回目を0月として以降 2か月、6か月後(初回 接種から6～12か月間 隔をあけて接種)				
12	水 痘		予防接種法で定める対象年齢外で あって、1歳以上で医師が必要と認め る者	2回	3月以上	各0.5ml		皮下	
13	带状疱疹(乾燥弱毒生水痘ワ クチン)		50歳以上の者	1回		0.5ml		皮下	
14	带状疱疹(乾燥組換え带状疱疹 ワクチン)		50歳以上の者	2回	2月	各0.5ml		筋肉内	
			带状疱疹に罹患するリスクが高いと考 えられる18歳以上の者		1～2月				
15	Hib感染症		予防接種法で定める対象年齢外で あって、10歳未満で医師が必要と認め る者	1回		0.5ml		皮下	

№	対象疾病 (ワクチン)		対 象 者		実 施 方 法				備 考
					回 数	間 隔	接種量	方 法	
16	B型肝炎	(1) HBs抗原陽性の母親から生まれたHBs抗原陰性の乳児 (2) ハイリスク者(医療従事者、腎透析を受けている者、海外長期滞在者など)・一般の任意接種者 (3) 汚染事故時(事故後のB型肝炎発症予防)		3回	生後0、1、6か月	各0.25ml	皮下	・(1)では出生直後(生後12時間以内を目安)にHB免疫グロブリンを通常0.5～1mL筋注。 ・必要に応じて追加接種を行うことが望ましい。 ・(3)ではHBe抗原陽性の血液汚染事故の場合はHB免疫グロブリンを併用する。	
				3回	4週間間隔で2回、更に1回目から20～24週を経過した後に1回	各0.5ml (10歳未満 0.25ml)	皮下又は 筋肉内 (10歳未満は皮下)		
				3回	事故発生後7日以内 その後1か月後及び3～6か月後				
17	おたふくかぜ		1歳以上 (生後24～60月の間に接種することが望ましい)		1回		0.5ml	皮下	・副反応は少ないが、接種2～3週間後に一過性の耳下腺腫脹や発熱が見られることもある。また、まれに髄膜炎の報告もある。
18	A型肝炎		全年齢		初回2回	2～4週	各0.5ml	筋肉内または皮下	・1歳以上の小児が推奨される
					追加1回	初回接種後24週経過後			
19	狂犬病	全年齢	(国内製)	曝露前3回	4週間間隔で2回 6～12か月後1回	各1.0ml	皮下	・接種要否は世界保健機構(WHO)の推奨も参考に検討する。 ・咬傷等の曝露を受けた場合には、以前に曝露前免疫を完了した者であっても、必ず曝露後免疫を行う。 ※国内製と海外製は、曝露後の接種回数が違うので注意する。	
				曝露後6回	1回目を0日として以降 3、7、14、30、90日				
			(海外製)	曝露前3回	1回目を0日として0、 7、21又は0、7、28日	各1.0ml	筋肉内		
				曝露後 4～6回	1回目を0日として 4回接種:0(接種部位 を変えて、2箇所に1回 ずつ、計2回)、7、21日 5回接種:0、3、7、14、 28日 6回接種:0、3、7、14、 30、90日				
20	破傷風		全年齢	初回免疫2回	3～8週	各0.5ml	皮下または 筋肉内		
				追加免疫1回	初回免疫後6か月以上の 間隔				
21	肺炎球菌	13価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる者	1回		0.5ml	筋肉内		
		15価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる18歳以上の者	1回		0.5ml	筋肉内		
		21価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる成人	1回		0.5ml	筋肉内		
		23価	高齢者または肺炎球菌による疾患に罹患するリスクが高いと考えられる2歳以上の者	1回		0.5ml	皮下または 筋肉内		
22	髄膜炎菌		2歳以上56歳未満(備考参照)		1回		0.5ml	筋肉内	・2歳未満の小児、56歳以上の者への有効性、安全性は確立していない。
23	百日せき・ジフテリア・破傷風 3種混合 (DPT)		5歳以上で初回免疫が完了している者		1回 または 2回	DPT-IPV 4回目接種後6か月以上 あける	0.5ml	皮下	・学童期以降の百日せき予防目的(日本小児科学会推奨) ・就学前時の百日せき抗体価が低下しているため、就学前の追加接種を推奨(5歳～7歳半) ・2種混合(DT)の代わりに3種混合ワクチンを接種してもよい(11歳～12歳)
24	RSウイルス		予防接種法で定める対象外であって 妊娠24～36週の妊婦		1回		0.5ml	筋肉内	
			60歳以上の者または50歳以上のRSウイルスによる感染症が重症化するリスクが高いと考えられる者						
25	新型コロナウイルス感染症		生後6か月以上でB類の対象者を除く 全年齢		1回		製剤により異なる	筋肉内	・各ワクチンの添付文書に記載されている用法・用量に基づいて行う。
26	腸チフスワクチン		2歳以上(備考参照)		1回		0.5ml	筋肉内	・皮下にも接種可能 ・2歳未満の小児への接種に対する有効性、安全性は確立していない。
27	ダニ媒介性脳炎ワクチン		・1歳以上16歳未満の者は小児用 ・16歳以上の者は成人用		初回免疫3回 追加免疫3回目の接種から 3年後に1回、その後は3～5年ごとに追加接種	初回、1～3か月後、2 回目の接種から 9～12か月後に3回目 を接種	小児 0.25ml 成人 0.5 ml	筋肉内	・免疫の付与を急ぐ場合には、初回接種後、7日後、21日後、12～18か月後に接種し(合計4回)、その後3年後に5回目の接種を行う。